

「シジュウカラの営巣(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

シジュウカラは、都会地でも山間部でも、人工的な巣箱を最もよく利用する野鳥である。営巣時期は地域によって異なるが、気温が低い浅間高原(北軽井沢)では、毎年4月中旬～下旬に営巣を開始、5月上旬～中旬に孵化、6月に入って巣立つことが多い。



4月19日、シジュウカラが巣箱に入り、巣草を運んでいることを確認した。この巣箱では、昨年の春にも営巣をしたが、卵を6個産んだあとに抱卵を放棄してしまった。その後中の卵を巣草ごと除去して、完全に空っぽにしておいたのだ。前の年の営巣のあとは、完全に除去しておいたほうが、営巣率が高くなる。



写真は、その時に取り去った卵と巣草である。緑色の植物は、すべてミズゴケだった。そのほか、やわらかい綿のようなものが敷き詰められている。獣毛のよ

うにも見えたが、どうやら人工的な繊維のようだった。シジュウカラは、干してあるふとんを突いて、中の綿を持ち去るといった行動もとるようだ。



シジュウカラの卵は、このように褐色の模様がある。残念ながら、高感度カメラではこの模様はよく写らないことが多いので、この写真は貴重な資料である。



一通り巣草を運び込み終わると、巣箱の入口と反対側にお腹を押し付けて回転し、窪みを造る。卵を産み落とす為の「産座」である。こうなると産卵時期がかなり近い証拠となる。

産座が完全にできるまでは、シジュウカラが巣箱に入るのは昼間だけである。しかし、産卵時期が近付くと、夜間にメスが巣箱内に残り、産座で夜を過ごすようになる。巣箱内でメスが過ごすのは、およそ日没から日の出までの時間帯で、その間は絶対に外に出ることはない。数日後の早朝に、最初の卵を産むことが多い。今年もあと数日で産卵となりそうだ。